

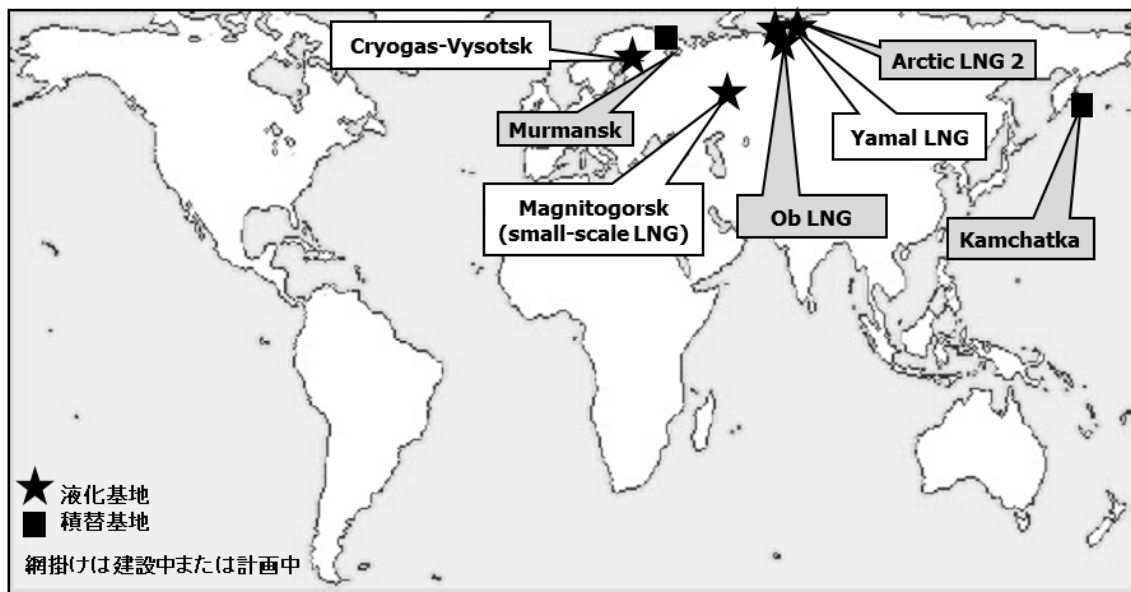
## 7. NOVATEK

### (1) 企業概要

NOVATEK は、2019 年 8 月に創業 25 周年を迎えたロシア連邦最大の独立系天然ガス生産企業であり、天然ガスや液状炭化水素の探鉱・開発、生産、処理、販売を行っている。1994 年 8 月の創業（1994 年 8 月 AOOT FIK Novafininvest として設立し、その後 PAO NOVATEK と改称された）以降、ロシア国内市場のみならず、世界 28 か国へ対して天然ガスを供給するグローバル企業へ成長した。

炭化水素埋蔵量としては、2019 年 12 月 31 日現在、SEC 基準の埋蔵量として、原油換算 163 億 boe 相当を有する。現在 20 件の石油・ガス田群にて商業生産を行っており、2019 年の天然ガス販売量は前年同期比 9%増の 78.5 Bcm、その内 LNG は前年同期比 110%増の 12.4 Bcm である。また、2019 年の売上高は前年同期比 3.7%増の 8,628 億ルーブル、EBITDA は前年同期比 11%増の 4,612 億ルーブルであった。

NOVATEK の LNG 液化・受入基地図



### (2) LNG 関連

NOVATEK は、ロシア国内で民間企業主導の LNG プロジェクトとして初めて、Yamal LNG を立ち上げた。2017 年 11 月、同プロジェクトの第 1 トレインが LNG 生産を開始した後も段階的に LNG 生産能力が引き上げられ、2019 年 7 月現在、第 3 トレインまで稼働しており合計液化能力は年間 1,650 万トンとなっている。また、現在は年間 90 万トンの液化能力を持つ第 4 トレインを建設中であり、同プロジェクトの合計液化能力は年間 1,740 万トンまで拡大する予定である。同プロジェクトによる 2019 年累計 LNG 出荷量は、253 カージ、

#### IV. 主要企業別 LNG 事業動向

1,840 万トンであり、世界の LNG 生産量の 5%を占めている。2020 年 2 月、Yamal LNG 稼働開始以降で累計 3,000 万トンとなる 411 隻目の LNG を出荷したことを発表した。

また、NOVATEK はヤマル半島の東側ギダン半島 Salmanovksoye (Utrenneye) ガス田を主供給源とする LNG プロジェクト、Arctic LNG 2 の開発も進めている。同プロジェクトは、それぞれ年間 660 万トンの液化能力を持つトレインを 3 基設置することで、年間 1,980 万トンの生産容量を実現する計画である。2018 年 10 月に基本設計 (FEED) が完了し、2019 年 9 月に最終投資判断 (FID) を行った。2023 年末までに第 1 トレインの稼働開始を目指しており、すでにプロジェクトの 90%以上が契約済みとなっている。同プロジェクトには日本企業も様々な形で参画している。2019 年 6 月、三井物産は JOGMEC と共同出資する Japan Arctic LNG B.V. (JOGMEC 75%、三井物産 25%) を通じて、Arctic LNG 2 プロジェクト持分を 10%取得する契約を締結した。2019 年 8 月、日本貿易保険 (NEXI) は、三井物産の出資部分において海外投資保険の引受を決定している。さらに、国際協力銀行 (JBIC) は Japan Arctic LNG B.V. との間で、融資金額 125 百万ユーロを限度とする貸付契約を締結している。

さらに 2019 年 5 月、NOVATEK はヤマル地域において 3 件目の LNG プロジェクト、Ob LNG を計画中であることを発表した。Ob LNG はヤマル半島中部 Verkhnetiuteyskoye、Zapadno-Seyakhinskoye ガス田資源をフィードガスとして利用し、年間 500 万トンの液化能力を有する予定。2023 年の稼働開始を計画しており、Yamal LNG プラント近くの Sabetta に、ロシアの国産技術のみを利用して建設される計画である。

LNG 輸送に関しては、ヤマル地域から夏季は北極海航路 (NSR) 経由アジアへ、それ以外は欧州向け、または欧州等で在来 LNG 輸送船舶に積み替えた後、他地域に輸送を行うとしている。2019 年 12 月には、北極海航路に用いる 15 隻目の Arc7 砕氷 LNG 輸送船舶の運用を開始し、2020 年 7 月には日本初となる NSR 経由のカーゴが扇島へ出荷された。また、2020 年 6 月には、欧州・アジアへの LNG 輸送における主要中継地であるムルマンスクとカムチャッカ地域へ配置予定である 360,000m<sup>3</sup> 級の世界最大となる LNG バージ 2 隻を韓国の大宇造船海洋 (DSME) へ発注した。

2019 年 4 月、NOVATEK (51%) と Gazprombank (49%) が出資する合弁会社 Cryogas-Vysotsk は同社初となる中規模 LNG 計画 Cryogas-Vysotsk LNG プロジェクトの商業運転を開始した。年間 66 万トンの液化能力を有し、バルト地域、ロシア国内、北欧地域を対象に、バンカリング燃料、運輸用燃料、家庭向けガスが供給される。

#### NOVATEK が出資する積替基地

国名	基地名	出資者	受入能力 (万トン/年)	事業開始
ロシア	Kam chatka	NOVATEK, 丸紅、商船三井)	2000	2022 - 2023
	M um ansk	NOVATEK	2000	N.A.

## NOVATEK が出資する LNG プロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 (万トン/年)	生産開始	出資者	主要仕向地
ロシア	Yamal LNG (Train 1)	550	2017年	JSC Yamal LNG (NOVATEK 50.1%, Total 20%, CNPC 20%, Sik Road Fund 9.9%)	アジア、欧州
	(Train 2)	550	2018年		
	(Train 3)	550	2018年		
	(Train 4)	90	2020年 (建設中)		
	Arctic LNG 2 (Train 1)	660	2023年 (建設中)	NOVATEK 60%, Total 10%, CNPC 10%, CNOOC 10%, Japan Arctic LNG B.V. (JOGMEC 75%, 三井 物産 25%) 10%	アジア、欧州
	(Train 2)	660	2024年 (建設中)		
	(Train 3)	660	2026年 (建設中)		
	Cryogas-Vysotsk Stage 1 (Train 1, 2)	66	2019年	NOVATEK 51%, Gazprom bank 49%	ロシア、 バルト地方、 北欧
	Stage 2	110	計画中		
	Ob LNG	500	2023年 (計画中)	NOVATEK	アジア、欧州
Magnitogorsk (small-scale LNG)	4	2020年	NOVATEK	ロシア国内	

## (3) 今後の戦略

今後も LNG を含む天然ガス、コンデンセート関連事業のバランスの取れた収益構造を続けていくが、特に LNG 生産事業に関しては、アジア市場を中心に需要見通しをさらに上方修正すべきとの市場感に基づき、Arctic LNG 2 や Ob LNG 等、新たな LNG プロジェクト開発を推進する方針である。近年、地球温暖化による北極海航路の実現や、将来的な原油生産量の減退に不安を抱えるロシア政府の強烈的なバックアップの恩恵や、国家の戦略的な技術開発の観点からも、北極圏開発の期待は高まっている。

国際的な協力も拡大されている。2020年3月、欧州委員会は NOVATEK、Sinopec、Gazprombank の3社による合弁事業の設立に関して承認を行い、中国における天然ガスの輸出入、売買、天然ガス関連事業への投資が可能となった。本承認は2019年6月に3社が締結した基本合意 (HOA) に基づいている。

また、同社は陸上輸送燃料用の LNG 充填ステーションの拡大にも注力しており、2019年12月にはドイツのロストックにて同社初となる欧州での LNG 充填ステーションの運用を開始した。1日最大120台のトラックへ燃料を補給することが可能となる供給能力を持つ。今後数年間で、ドイツ、ポーランドでの LNG 充填ステーション設備網の構築を計画している。さらに、LNG バンカリングに関してはドイツにて LNG 船舶に対して LNG を供給している Nauticor とバルト海の LNG 供給設備開発について覚書 (LOI) を締結し、事業拡大を検討している。